丸山湿原群保全の会会報

（第 132 号）

発行日：2018 年（H30）7月 19 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

地震の話題が下火になったと思えば、西日本豪雨がおき、驚くべき範囲で被害が出ています。しかもこの雨で梅雨明け。梅雨明け 10 日とはよく言ったもので、気温上昇は恐ろしいほどに。西谷でも 36℃越えでしょうか？しかも湿度が高い！じっとしていても熱中症になりそうです。それを思うと被災地の状況が気になります。ボランティアのみなさんには頭が下がりますが、自分が熱中症にならないように願います。特に、普段野外で活動していない方は大丈夫と思っていても熱中症になっている場合もあります。体調が戻るまで長い時間がかかります。丸山の活動も同じですね。くれぐれもこまめな給水と休養を。また、被災者の皆さんができるだけ早く、普段の生活に戻ることを願っています。

（今住　７月１８日作成）

さて、丸山ですが地震も大雨もあまり影響はなかったようです。多少の被害と変化はあります。それは追って。

小学校フィールド学習　★6 月 13 日（水）

ずいぶん前のことのように思われます。紙面の都合でのせなかったもの。

いざ出発

梅雨の晴れ間。見事にいい天気でした。９時過ぎ、貸し切りの阪急田園バス（旧西谷バス）から元気な子どもたちの姿が見えました。**今回は校長先生も参加。全員双眼鏡持参。使い方は勉強してきたかな？**

幼虫を双眼鏡で　天才？

駐車場でご挨拶。前回の教室学習で名前を覚えて（昨年もですが）いてくれました。**「今日、観察できるものは？」の質問に「トキソウ（朱鷺草）」の声！素晴らしい。それと…答えがない！「イッチョウ、ニチョウ、サンチョウ…ロクチョウ、ナナチョウ、ハッチョウトンボ！（八丁蜻蛉）」とおやじギャグ。**わかっていたのに答えなかった？湿原までにも色々な観察できることを伝え、いざ出発。早速、**ヤブムラサキ（藪紫）のビロード状葉っぱの産毛（微毛）にうっとり。竹筒ポスト付近では、ツチアケビ（土木通）の奇妙さに驚き？アリマウマノスズクサ（有馬馬の鈴草）についたジャコウアゲハ（麝香揚羽）の幼虫を双眼鏡で観察。（手に持っているから肉眼で見んかい！）**

先頭で作ってます　ポーチを！

さて湿原、視点場に入る前にすぐ近くにあった**アカメガシワ（赤芽柏）の葉で指導員からミニポーチを作ってもらい感動。アカメガシワは古代よりお供え物のお皿として使われていたとか。**

しばし水分補給の休憩。途中取ってきたコシアブラ（漉油）の葉を並べて楽しんだり、おっさんのようにくつろいだり…。その間にハッチョウトンボ発見！「おった！」「どこどこ？」小ささに感動していたような？その後、第４湿原でさらにオスとメスの違いを確認。足を滑らしドロドロになった子も。水路の橋に腰かけて足を洗いました。帰りには川際のギンリョウソウ（銀竜草・別名ユウレイグサ・ユウレイタケ）を川の中に入って観察。なかなかワイルドなフィールドワークとなりました。その後振り返り、ご挨拶を終えて帰途に。

おった！ハチョウトンボ

コシアブラを広げ休憩

おっさんのように休憩

細かい配慮の運転手さん

バス乗車前に、バスで来た道の途中にある小さなため池に、たくさんのモリアオガエル（森青蛙）の卵があることを連絡。（すでに知っている子もいました。さすが西谷っ子！）バスの運転手さんもそこで停めて観察させてくれるとのこと。数を数えるとの声がありましたが、見ることはできたのでしょうか？結果は次回（２学期）に。先の長い話ですが…楽しみにしています。

活動報告　★6 月 24 日（日）定期活動　９名で活動

入口～竹筒ポスト平場の整理の続きと、歩道わきササ処理、観察

なかなか進まない平場の整理。まー実質的な作業の時間が短いのが原因ですが。疲れない程度にが丸山方式。（ホンマにええんやろか？）しかし、暑くなってきて倒れても仕方がない。物足りないぐらいがちょうどいい。冬場に頑張りましょう。

ツチアケビがよく映える（わかる？）

少しすっきりの平場

疲れない程度の作業でも、竹筒ポスト付近はずいぶんすっきりとしてきました。またまた登場のツチアケビ（土木通）が見事に映えます。（インスタ映えするのに UP されてないな…気持ち悪いか？ハッシュタグで見ると１６０UP されてました。）花盛りだったヤマボウシ（山法師）は実に。赤くなる前の実はあまり見たことがありませんでしたが、見てみるとプラネタリウムの機械のよう。何かメカニカルな雰囲気があります。９月か 10 月には真っ赤に色づくでしょう。食べてみましょう。

ノハナショウブ

ヤマボウシの実

アギナシの葉

湿原にはノハナショウブ（野花菖蒲）が咲き、アギナシ（顎無）も葉が裂けて花茎をのばす準備が整ったようでした。次回には花が観察できるころです。ちなみにノハナショウブは園芸品種の原種です。花弁に延びる一筋の黄色い筋が目印。アギナ

シについてはバックナンバー（１０９号）で説明済み。オモダカ（面高）ではないよ！オモダカは田んぼに多い。家紋に使われているのはオモダカ。よく似ています。（区別していたかは？私見）

定期活動

★7 月 14 日（土）定期活動　５名で活動　晴　酷暑（豪雨後、すでに梅雨明け）
定期基礎調査、巡回、ごみ回収、観察、外来種除去　（最高気温33.6℃　１１：30）

目的	市内	市外
丸山	53	43
ハイキング	14	8
その他	6	0

来場者数　計 124 人
（竹筒ポスト人数）

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度（EC）	PH
入口	10：08	29.5℃		
視点場	11：00	32.9℃		
第３湿原	10：45	【27.6℃】	43.8μS/cm	6.4
第１湿原	11：05	【34.1℃】	34.2μS/cm	6.6
第２湿原	11：30	【31.7℃】	35.9μS/cm	6.6

【湿原・活動の様子】

西日本大水害後初めての活動。この雨で梅雨も明け、危険なほどの気温に。水分補給と塩飴で注意しながらの活動です。事前調査で大きな被害はないと確認済みですが、やはり道が荒れ根の浅いリョウブ（令法）が倒れていました。早速、道をふさいでいるリョウブを撤去。細い株で簡単に処理できました。道は、旧道（もともと荒れている）が水路になったらしく、土が流れ込んだり逆に深ぼれになり底が抜けたようになった所も。やはりあまり使わない方が安全です。この道はいずれ水路に取り込まれる。もしくは、今の水路と入れ替わるような気がします。水の力は大きく、人が制御できるものではないと思います。

第 3 湿原手前の　旧道深ぼれ

倒れたリョウブの処理

途中その道に小さな（約３㎝弱？）カエルが。アカガエル？どうも違う雰囲気。ザラザラ感あり。不細工。しかもいぼあり。ニホンヒキガエル（日本蟇蛙）の幼体と判断しました。

ヒキガエルは別名ガマガエル。かの有名な「さあ、お立合い…一枚が二枚に二枚が四枚に…」と売られた「ガマの油」の原料となるカエルです。「筑波山の四六のがま」はアズマヒキガエルと思われます。四六は指の数。前足の指が４本。後ろ足の指が６本…ありえません！両生類セミナー・調査に参加された方はご存知だと思いますが、基本的に両生類は、前足の指４本後ろ足の指５本です。そのガマガエルに自分の姿を鏡で見せ、自分の醜さに「たらーり、たらーり」と流れ出た汗？が「ガマの油」。嘘ですよー！実際は「馬油や植物の蒲を利用した物」を売っていたというから現代なら逮捕もんでしょう。

多分、ニホンヒキガエルの幼体

珍しい生き物（四六の指）、再生能力（指が無くなっても再生することも）、大きい（20 ㎝近い）、どっしりしている（跳ねないで歩く、出会っても動かない）、毒を持っている（ヤマカガシの首から出る毒はガマの毒）などから、不思議な力を持つ生き物＝薬となったのでしょうか？しかし調べてみると本当の「ガマの油？」が存在。「せんそ」といわれる漢方薬。成分は「六神丸」にも使われているそうです。その姿もですが、恐るべしヒキガエル。

しかも産卵は１万個以上の卵をチューブ状に産む。

メスの取り合いでカエル合戦もする。でもめったに出会えないカエルです。今回見つけたのは今年生まれた子のようです。１万個の卵から、オタマジャクシとなり３㎝のカエルに…。生き残れるでしょうか？幸運を祈る。

ヒキガエルに力が入りすぎました。湿原です。気温が高く植物も「おひたし」になるのではないかと心配されますが大丈夫のようです。ムラサキミミカキグサ（紫耳かき草）も咲き出しました。ホザキノミミカキグサ（穂咲きの耳かき草）がまだ見えないのはなぜでしょうか？写真はありませんが、アギナシも開花確認。

酷暑の第１湿原　視点場から上手

地味ですがミカヅキグサ（三日月草）も咲いています。ミカヅキグサは氷河期の残存植物。本来は高層湿原や北の寒い湿原で見られる植物です。しかしこの高温に耐えられるから不思議です。それに対しミミカキグサ類は南方系。多年草のはずが寒さのため株を残せず種のみで冬を越す。湧水湿原（滲水湿原）の多様性そのものでしょうか？昆虫もしかり、ヒメタイコウチ（姫太鼓打ち）は北方系。氷河期の生き残りといわれています。昆虫なのに…ホソミオツネントンボ（細身越年蜻蛉）もいるな…バイオダイバーシティですな。（ちょっとかっこつけました）

ムラサキミミカキグサ

第２湿原に回ると、何やら地面からにょっきり。「おーサルノコシカケや」。マニアにはたまらない。通称「霊芝」とも。正式名はマンネンタケ（万年茸）。サルノコシカケ（猿の腰掛）というキノコはないそうです。サルノコシカケ科のキノコ。この分類も微妙みたいですが。これも漢方薬。ガンの特効薬とも。霊力があるから霊芝。「芝」は中国語でマンネンタケそのものを指すようです。サルノコシカケの名前は、猿が腰をかけることが出来るほど固いからか？マンネンタケも万年（長い間）キノコの形で残ることからようです。縁起物として置きものにも。虫が来るのでニスを塗るそうです。お持ちの方が結構いるのでは？今回見つけたのは成長途中と生えかけ。この生えかけは特に珍重され、昔は超高値で取引されたそうです。そっと置いておきます。誰かが持って帰るかな？

成長中マンネンタケ（霊芝）

出たての霊芝（宝物）

ゴミ　「美山名水」が泣きます

暑いのでここらで帰りました。「霊芝」生でかじったら元気出たかな？忘れていましたゴミも捨てられていました。缶コーヒー、紙コップ、吸い殻。おまけに缶コーヒーの銘柄が「美山名水」と皮肉な！

秋のセミナー　秋の公開「丸山セミナー」の概要が決まりました！今回は「宝塚西谷の森公園」とのコラボ。10 月 27 日（土）場所：兵庫県立「宝塚西谷の森公園」多目的室　内容：① 西谷の森公園で出会った昆虫たち　② 西谷の地質と暮らし　です。詳細はもう少しお待ちください。

サギソウ開花数調査　すでにチラシ等配布中ですが、８月 18 日（土）恒例の開花数調査です。ぜひご参加ください。お待ちしております。

次回活動日　７月 22 日（日）作業
７月 28 日（土）ガイド研修　　８月 11 日（土）
８月 18 日（土）サギソウ開花数調査
８月２６日（日）作業